

皇帝フリードリヒ 2 世の銅製の蠟の印鑑の模型  
(1220 年・1250 年の間に使用)

半径:8.2cm

刻印された言葉：

神の栄光により、永遠に崇高なるローマ人皇帝フリードリヒ

※1220 年 11 月 20 日、ローマで行われた皇帝戴冠式のためにストラスブールで作られたらしい。この印鑑は、フリードリヒ 2 世が 30 年の在位中公式に用いられた。1229 年にフリードリヒ 2 世はエルサレムの王にもなり、その戴冠式の後に「そして、エルサレムの王」という言葉が付け加えられた。

皇帝は、玉座に座り、右手に百合の形の王笏を持ち、左手には全世界を象徴する、十字架を付けた帝国林檎（世界はキリスト教の支配下にあるという意味）を持っている。

(ベルンド・ウエツカの説明から抜粋)